

市民のひろば

魅力あふれるいわきの創生
～いわきの芸術・文化・スポーツ～

今月号は、ダンスで地域の皆さんを応援する活動を行っているクラブスチアリーダーズから、本市を拠点に活動する「クラブスいわき」の入江楓さんに、インタビューした内容をお伝えします。



入江楓さん（クラブスいわき）

レポート②

Q 活動について教えてください。

地域の応援隊として、地域で頑張っている方たちを応援し、笑顔や元気を届けることを目的に設立したのが、クラブスチアリーダーズです。県内他市や宮城県にもチームがありますが、いわきでは、私たちクラブスいわきとクラブス小名浜の二つのチームが活動しています。

クラブスいわきでは、練習は週に一回行い、クラブスチアリーダーズ代表の石河美奈さんが考えたダンスを中心に、練習しています。自分たちで選曲し、振り付けを考えることもあります。

必ず月に一回は、イベントでダンスを披露しています。出演するイベントごとに、立ち位置や構成が変わったりするので、どの位置でも完



大きな声を出しながらダンスの基本となる腕の動きを練習

壁に踊れるよう、みんな一生懸命練習しています。

Q 地域の応援隊として活動されていますが、反響はいかがですか。

さまざまなイベントに出演しますが、いつも多くの方が拍手や歓声をくれるので、やりがいがあります。ダンス披露後は、来場した方にダンスを体験してもらおう、参加コーナーを設けていますが、子どもも大人も一緒に踊ってくれて、会場が一体になるので、とても楽しいです。

他にも、仮設住宅や老人ホームを訪問することもあります。「元気をもらった」と喜んでくれるので、これからも続けていきたいです。

Q チームで心掛けていることはありますか。

礼儀やあいさつ、返事、相手の目



クラブス小名浜と合同で地域の夏祭りに参加

を見て話すなど、人として基本的なことを徹底しています。そして、自分が教わってきたことを率先して、年下のメンバーに教えるなど、一人がチームのリーダーになるという意識を持っています。互いに動きを確認し注意することで、精度の高いダンスを追求しています。

また、イベントの出演前には、モチベーションを高めるため、声を出して円陣を組むようにしています。

Q 今後の抱負をお願いします。

観客の皆さんをより楽しませることができるよう、エンターテインメント性の高いチームを目指しています。難しい振り付けや構成に挑戦しているのも、さらに磨きをかけたダンスで、これからも、多くの方に笑顔や元気を届けていきます。

地名の中の「いわき」

常磐の由来①

「常磐」という地名は「常陸国」と、明治元（一八六八）年に陸奥国から分離した「磐城国」の一字ずつを取って、現在の福島県と茨城県にまたがる地域を表す通称地名として、名付けられたことをご存じですか。「常磐線」や「常磐自動車道」が代表的な名称です。それが、

地名には、地域の歴史を知るヒントが隠されています。市内各所の地名にまつわる由来などを紹介し「いわき」の歴史をひもときます。

本市の大同合併のきっかけとなった、昭和三十九（一九六四）年国指定の「常磐・郡山新産業都市」に見られるように「常磐」が、福島県側だけを表すように変化していったのは、なぜでしょうか。

それは、工業化と関わりがあります。戦後の昭和二十年代以降、それまでの石炭産業だけでなく、小名浜や勿来の臨海・化学工業化が進む中、いわば発展が約束された地を指す言葉として「常磐」が用いられるようになります。その結果、福島県側に限定されて使われるようになりました。

しかし、その後「常磐」といわれた地域が合併して、いわき市が誕生したことにより、通称地名であったこの名称は、ほとんど使われなくなったのです。

では、合併前の旧市町村の一つである「常磐市」という地名には、どのような由来があるのでしょうか。それは次号で紹介いたします。

（いわき地域学會 小宅幸一）
※いわき市内の昔の写真をお持ちで、提供いただける方は、ふるさと発信課（☎22・7503）までご連絡ください。

連載シリーズ

安全功労者内閣総理大臣表彰

▷いわき市交通安全母の会連合会
交通安全や火災予防などに功績のあった個人・団体に授与される表彰で、地域の交通安全行事に従事し、通学路での街頭指導など、交通事故防止や、交通安全思想の普及・高揚に貢献したことが評価されました。

まちづくり月間まちづくり功労者 国土交通大臣表彰

▷鶴のあし湯を愛でる会（常磐湯本町）
魅力あるまちづくりの推進に功績のあった個人・団体に授与される表彰で、温泉情緒を生かした交流拠点広場づくりや、まちの魅力向上に貢献したことが評価されました。

いわき産農産物を使用した防災非常食等に係る三者協定を締結

6月23日、市と株式会社サンフレックス永谷園、福島さくら農業協同組合で「いわき産農産物を使用した防災非常食等に係る三者協定」を締結しました。

同協定に基づき、いわき産農産物を使用した防災非常食の開発・製造・販売および備蓄に取り組むほか、PRなどを通して、いわき産農産物の消費の拡大や風評の払拭、6次産業化の推進を図っていきます。

災害時の備えや風評の払拭に向けて協定を締結

